

構造-演習問題 3

「得点できたかどうか」「○か×か」ではなく、問題文を読んだ時に、「その関連の知識が、頭の中にどう収納されているのか、フォーカスポイントはどこか」を簡単に**余白に描き出して**みてください

ウラ模試 2

[No.17] 鉄骨構造の設計に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 柱の継手部を許容応力度設計する場合に、継手部に作用する存在応力を伝えることが可能であったので、部材の許容耐力の 35%を超える耐力を設計用応力とした。
2. 梁のせいがスパンの 1/15 以下の場合、建築物の使用上の支障が起こらないことを確かめるためには、地震力計算用の固定荷重及び積載荷重による長期たわみの最大値が所定の数値以下であることを確認すればよい。
3. 工場や体育館等の軽量の建築物の柱継手・柱脚の断面算定においては、暴風時の応力の組合せとして、積載荷重を除外した場合についても検討する。
4. 大梁に H 形断面材を用いる場合、梁端部のフランジに水平ハンチを設けることにより、梁端接合部に作用する応力度を減らすことができる。

ウラ模試 2

[No.18] 鉄骨構造の高力ボルト接合に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 高力ボルト **M22** を使用する場合、ボルトの相互間の中心距離を 50mm 以上とし、孔径は 25mm 以下とした。
2. クレーン走行桁など振動・衝撃又は繰返し応力を受ける部材の接合部には、高力ボルト以外のボルトを使用してはならない。
3. 水平力を受ける筋かいの接合部において高力ボルト摩擦接合を用いる場合、接合部の破断耐力の検討に当たっては、高力ボルト軸部のせん断力と母材の支圧力により、応力が伝達されることとした。
4. アルミニウム合金材の梁の接合に用いる高力ボルトは、一般に、接触腐食の起こらないように溶融亜鉛めっき高力ボルトを用いる。